

●高尿酸血症・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム 第7回研究集会

生活習慣病の効率的な改善・予防策を 多面的な角度から探求する報告相次ぐ ～高尿酸血症治療薬登場で期待されるMetS研究の方向性～

◎セッション2より

琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座の小塚智沙代氏は「視床下部小胞体ストレス抑制を介した玄米による新規の糖尿病予防メカニズム」を報告した。玄米には多彩な栄養成分が含まれているが、同研究ではヒトおよび食事誘導性肥満マウスで、玄米が糖尿病・肥満症の病態改善に及ぼす影響と分子メカニズムが検討された。ヒトにおいては白米食から玄米食に替えると体重が減り、玄米食から白米食に替えると体重が増えた(BRAVO試験)。玄米食摂取後は、血糖値、耐糖能、インスリン感受性も改善が認められた。マウスにおいては、高脂肪食とともに玄米を10週間与えると、白米給餌マウスに比べ、耐糖能の悪化が有意に改善された。高脂肪食と低脂肪食を同時に与えたところ玄米給餌群では低脂肪食を顕著に嗜好することが見出された。玄米給餌群においては視床下部における小胞体(ER)ストレス関連遺伝子(CHOP, ERDJ4, Xbp1)の発現が抑制されており、玄米が視床下部ERストレスの抑制を介して、高脂肪食への嗜好を抑制する可能性が示唆された。